

地域がん診療連携拠点病院・地域医療支援病院<川崎市立井田病院からのお知らせ>

い だ や ま 井田山

第91号

基本理念「井田病院は、自治体病院として、市民から信頼され、
市民が安心してかけられる病院づくりを目指します。」

井田病院グリーンカーテンについて

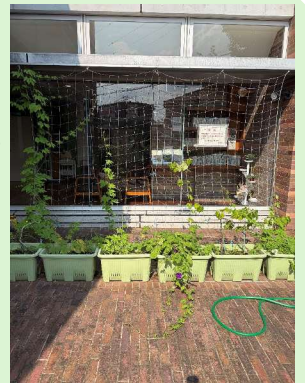
令和6年度の川崎市政100周年事業として行われた「全国都市緑化かわさきフェア」の一環で、井田病院でも、芝生エリアに2基のオベリスクと南側の窓2面にグリーンカーテンを設置しました。

今年度もオベリスクとともに、グリーンカーテンに植栽を開始しています。

種類は豊富で、あさがお、ひるがお、ゴーヤにパッションフルーツ、ブドウを育てています。すでにひるがおは、花を咲かせていますので、ぜひご覧いただければと思います。

去年は、ゴーヤはもちろんのこと、パッションフルーツ、ブドウも実がなりました。

今年も実がなるように、水やりを行っていきたいと思いつつ、一緒に育てたいと思う方も募集しますので、庶務課までお声かけをお願いします。



(文責：庶務課 濱田)

東ガーデン紹介

井田病院の敷地内にガーデンがあるのをご存知でしょうか？

井田病院の東側、緩和ケア病棟の建物の隣りに「東ガーデン」があります。

園芸ボランティアさんが丹精込めて育てた四季折々のお花が楽しめる、癒しの場所となっております。ガーデンには、小さい池がありかわいらしい金魚も泳いでいます。どなたでも鑑賞することができますので、受診の合間にどうぞお立ち寄りください。



紫陽花の時期が過ぎ、これから向日葵やカンナなどの夏の花が楽しめます。井田病院は様々なボランティアが活躍されています。園芸ボランティアに限らず、ボランティアを随時募集しております。ご興味のある方はボランティア担当までご連絡ください。

(文責：図書室 荒木)

井田病院ホームページはこちら



火を通した料理でも起こる食中毒 ーウェルシュ菌に注意！ー

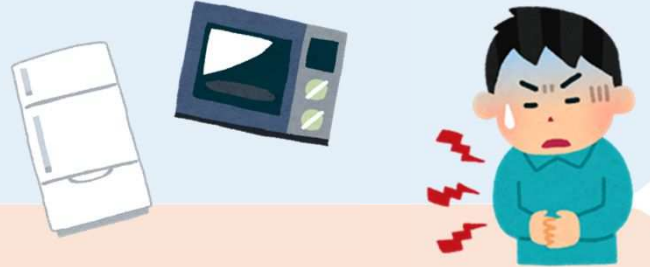
✓ ウェルシュ菌って？

自然界に広く存在する細菌で、熱に強い「芽胞（がほう）」を作ります。しっかり加熱したカレーやシチューなどでも、調理後にゆっくり冷める間に増殖することがあります。外側が冷えても中心部は温かいままになりやすく、その間に菌が増えてしまいます。

✓ 症状 食後6～18時間で腹痛や下痢が起こり、発熱や嘔吐は少ないのが特徴です。

✓ 予防のポイント

- ・調理後はできるだけ早く食べる
- ・残った料理は粗熱を取ってから冷蔵・冷凍保存
- ・浅い容器に小分けして冷却する
- ・煮込み料理はよくかき混ぜて均一に加熱する
- ・保存した料理は十分に再加熱する



✓ こんな食中毒も！

フライドライス症候群（セレウス菌食中毒）

炊いたご飯を室温で長時間放置すると、熱に強いセレウス菌が増殖し、加熱しても壊れにくい毒素を作ることがあります。そのご飯で作ったチャーハンなどを食べて発症する食中毒です。

予防のポイント

- ・ご飯を室温で放置しない
- ・余ったご飯は速やかに冷蔵・冷凍する
- ・作り置きした米飯の温度管理を徹底する

💡「火を通したから安心」ではありません。食中毒予防のカギは、調理後の冷却と適切な保存です。

（文責：感染対策室）

熱中症対策について

昨年と同様に今年も「日傘」の有用性についてお伝えしたいと思います。普段日傘を使う習慣のある方は今更と思うでしょうが、「傘の下は常に日陰」なのです。じりじりとした直射日光が当たらないだけで体感温度もかなり違いますし、日焼けも熱中症も防ぐことができます。最近は突然の雨も多いので晴雨兼用傘を鞆に持ち、是非試してみてください。あとは暑い昼間の外出は極力避けましょう。

熱中症は高温多湿な環境下で、発汗による体温調節等がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態をさします。高齢になると誰でも暑さやのどの渇きを感じにくくなります。暑さのために発汗し、脱水から熱中症になります。また熱中症で救急搬送された高齢者は屋外より屋内での発症が多くなっています。屋内、夜間でも熱中症に注意が必要です。そのため熱中症対策のポイントを3つお伝えしたいと思います。

POINT

- ① 脱水から熱中症にならないようにテーブルや枕元に水筒やペットボトルを置き、のどが渇いていなくても時間を決めてコップ1杯（約150～200ml）の水やお茶など水分をとりましょう。特に寝る前と夜中トイレに起きた時、起床時はいつもより多めに水分を取って下さい。
- ② 体温が上がらないように適切にエアコンを使用しましょう。昼夜を問わず室温が28度以下になるように調節して下さい。電気代は相変わらず高いですが命のほうが大切です。躊躇せずエアコンを使用しましょう。
- ③ なんとなく元気がない、ぼーっとする、脱水が疑われる時は市販の経口補水液500mlすべて飲みましょう。症状が改善しない、水分が取れない場合は、救急車を呼んで下さい。



（文責：クリティカルケア認定看護師 吉田）

抗がん剤の脱毛を抑える「頭皮冷却療法」のご紹介

■ 頭皮冷却療法とは？

抗がん剤治療（化学療法）を行う際、専用のキャップを被って頭皮を一定の温度に冷却する治療法です。頭皮の血管を収縮させることで毛包への薬剤の到達を抑え、つらい副作用である**脱毛を軽減・予防し、治療後の再発毛を早める効果**が期待できます。当科では2023年8月より、世界的に信頼性の高い頭皮冷却装置「PAXMAN（パックスマン）」を導入しています。

■ 日本・神奈川県内での普及の現状

海外では広く普及している治療ですが、日本ではまだ導入している医療機関が少ないのが現状です。神奈川県内でも当院のほかには、横浜新緑総合病院、横浜栄共済病院、戸塚共立第2病院、湘南鎌倉総合病院、平塚市民病院、大和市立病院、横浜市立みなと赤十字病院など、まだ限られた施設でしか導入されていません。

■ 当院での対象となる患者様について

現在当科では、この治療を「乳がんの術前化学療法」を受けられる患者様に限定してご案内しております。治療に用いる冷却キャップには安全に使用できる回数制限があること、そして予め治療回数が決まっている方に限定することで、より多くの患者様にこの限られた医療資源を公平に利用していただくための措置です。何卒ご理解いただけますと幸いです。

■ 当院の治療成績

一般的な治療成績と同様に、当院でも確かな効果が現れています。これまで約40名の患者様が本療法を受けられ、そのうち治療後の経過観察を終えた約20名の方の集計では、以下のような結果が出ています。

- ・約半数の方が、ウィッグ（かつら）を使わずに過ごせる程度の脱毛で済みました。
- ・一時的にウィッグが必要になった方も、約8割が半年以内に、そして1年以内には全員がウィッグを必要としないまでに再発毛されています。

■ 今後の展望とご相談について

現在は1台での運用ですが、最近ご希望される患者様が増えてきております。今後はより多くの患者様にお届けできるよう、2台目の機器増設も前向きに検討しています。費用やスケジュールなど、詳細を知りたい方はどうぞお気軽に主治医や看護師へご相談ください。

（文責：乳腺外科部長 嶋田）

市内産野菜の提供



食養科では地産地消の取り組みの一環として、6月18日（木）に川崎市内産のトマトを提供しました。だし入りの三杯酢（酢・醤油・砂糖）がトマトの酸味と甘みを引き立て、さっぱりとした一品です。そして、提供に合わせてアンケートを行いました。「トマトはあまり得意ではないが、おいしくいただきました。」「味が濃くとってもおいしく感じました。」「今後も続けてください。」など30近くのメッセージをいただきました。トマトは6月から8月が旬で、栄養素もほかの時期に比べ豊富に含まれています。トマトを食べて暑さを乗り切りましょう！



（文責：食養科 亀山）

乳がん治療中のアピアランスケアをテーマに 市民公開講座を開催しました

～当日の講座の様子～

6月18日（木）に「乳がん治療中のアピアランスケア～化学療法中の脱毛を抑制する頭皮冷却療法について～」をテーマにして乳腺外科の嶋田恭輔部長による市民公開講座を開催しました。

当日は、嶋田先生による乳がんの現状や検診の重要性、化学療法中の脱毛を抑制する頭皮冷却療法によるアピアランスケア等についての講義を行い、皆様から大変好評をいただきました。



今年度は様々なテーマで全9回の市民公開講座を開催いたします。
市民公開講座は申込不要、参加費無料です。
興味のある講座がありましたら皆さん是非ご参加ください。
詳しくは井田病院ホームページでご確認ください。

井田病院ホームページはこちら



七夕飾り

今年も入院患者さん・外来患者さん・ご家族をはじめ、職員にも沢山の短冊を書いていただきました。短冊は、外来ロビーに設置した笹に、患者さんの思いを込めて飾りつけを行いました。飾りきれなかった短冊は、委員が模造紙に飾りつけを行い2階エレベーターホールに掲示しました。エレベーター待ちの入院患者さんが、職員の願い事を熱心に見ていました。皆さんの願いが叶いますように…★

（文責：看護部 小倉）

